

2025年3月期事業報告書 (2024年4月1日～2025年3月31日)

特定非営利活動法人 ヴォース・ニッポン

1. 概要

2025年3月期の活動方針は、「高い品質と信頼性を備えた海洋の現場計測データを社会に提供する。この活動の意義を深めつつ、継続的・持続的な活動につながるよう、新しい展開も視野に入れながら、事業基盤を整える」としました。

現行の装置による観測は、2025年で8年目を迎えようとしております。2024年1月19日から発生している時刻飛びは、GPS下部のケーブル中継部のジャンクションBOX化によって、4月20日に復旧。2023年12月から発生した塩分計の記録異常は、同日4月20日、電磁波防止シートを巻くことで解消。2025年2月9日から発生したデータ取得に関するシステム系のトラブルは、現在その復旧作業に当たっています。

訪船回数が8回に止まり、現場ボランティアスタッフの確保の難しい一年となりました。

その他、発足から24年目を迎える本活動の課題を整理するため、県が主催するNPOのための支援事業、「かながわNPO伴走応援プログラム」に参加。活動の方向性や目的を改めて整理し、来期以降の事業内容を、抜本的に見直す年となりました。

今期に取り組んだ各事業の詳細は、「5. 事業計画の実施内容」をご覧ください。

2. 会員数

- ・正会員数：13名（2025年3月31日現在）
- ・支援会員数：0名（2025年3月31日現在）

3. 総会・理事会

[総会]

第24回 通常総会は、2024年5月10日、当法人事務所で開催され、次の通り議決・承認されました。（正会員数12名、出席者12名、うち書面表決者0名、表決委任者4名）

- ・2024年3月期の事業報告および決算の承認
- ・2025年3月期の事業計画および予算の承認

（事業計画は、データ回収・公開事業、装置維持管理事業、地域における海洋観測活動の継続3事業、経常収入予算393万円、同支出392万円など）

[理事会]

第30回 理事会（日時：2024年5月10日（金）／場所：当法人事務所）

- ・2024年3月期の事業報告および決算の承認
- ・2025年3月期の事業計画および予算の承認

第31回 理事会（日時：2025年1月17日（金）／場所：当法人事務所）

- (1) ヴォース・ニッポンの現状と今後について
- (2) 現場ボランティアスタッフの現状と、装置一時停止のご提案
- (3) 来期、役員の現状と、NPO法人格の存続について
- (4) その他

第32回 理事会（日時：2025年3月14（金）／場所：当法人事務所）

(1) ヴォース・ニッポン、今後の活動について

来期以降の法人の活動について事業見直し案（計測項目を水温のみとし、塩分・pH等は有志グループの活動として協力。）が了承

(2) その他（議事録署名人の選任など）

4. 監査

2025年3月期の収支計算書を含む全ての会計書類について、当法人監事による監査を受け、2025年4月23日付けで、内容は正確でかつ適法である旨の監査報告書を受領しました。

5. 事業計画の実施内容

2025年3月期は、次の3事業を実施しました。

(1) データ回収・公開事業（継続事業）

(2) 装置維持管理事業（継続事業）

(3) 地域における海洋観測活動（継続検討事業）

(1) データ回収・公開事業

当初の目標：

東京-北海道間の沿岸海域を航行する篤志観測船「ひまわり8」による表層塩分、水温、pHデータを低遅延で公開する。

データ回収：

2024年1月19日から発生している時刻飛びは、GPS下部のケーブル中継部のジャンクションBOX化によって、4月20日に復旧。2025年2月9日から発生したデータ取得に関するシステム系のトラブルは、開発者からサポートをいただきながら、その復旧作業に当たっています。

データ公開：

「ひまわり8」の観測装置による2024年4月～2025年3月までの東京―北海道間沿岸海域の公開データ数は約22.4万件と、昨年の2024年3月期の水準（24.2万件）と比べ5.7%の減少、安定していた一昨年2023年3月期の水準（27.6万件）と比べ19%の減少で、今年2月からはじまったシステムトラブルの影響を大きく受けた結果となりました。

広報活動：

今年も、2024年8月7日に実施された東京湾環境一斉調査（主催：東京湾再生推進会議モニタリング分科会等）にNIPPON EXPRESSホールディングス株式会社様と共同で参加。日本通運株式会社様の運航するRoRo船「ひまわり8」に搭載した観測装置で計測した、東京湾口から湾奥部の中央防波堤にいたる海域での往復の水温、304件を提供することができました。

2024年10月に開催された「第24回 東京湾シンポジウム」（主催：国土交通省）のポスターセッションに今年も参加。テーマは、「この1年の活動を振り返って」とし、トラブル発生とその対策という、日々の取り組みを紹介。

実績経費：

データ回収・公開事業の実績経費は、48.9万円でした。

(2) 装置維持管理事業

当初の計画：

GPSの復旧、塩分計の安定化、pH計の復帰、部品・配管の保全など、「ひまわり8」の運航に関わる関係者との緊密な連携を維持しながら、搭載装置全体として、安定的に稼動するよう努める。

観測装置の稼働状況：

〔塩分計 SBE45〕

塩分計については、2023年12月から発生した塩分計の記録異常は、2024年4月20日、電磁波防止シートを巻くことで解消。

2024年5月29日、定期キャリブレーションのため撤去回収、2024年9月24日、電磁波防止シートを巻き、計測再開。

〔pHセンサー Durafet III〕

新規pHセンサーについて、2024年6月24日から3回にわたり取付け作業を試みるも、台座と本機とのネジ山が噛み合わず装着を断念。現在、対策を検討中。

メンテナンスの訪船作業：

装置の定期メンテナンスは、およそ月に1回、主に3名のスタッフによって実施。訪船回数8回と少なく、作業スタッフ確保のむずかしい一年であった。メンテ作業の従事者数は延べ16名。(メーカーの技術者は含まれません。)

篤志観測船関係者へのお礼：

当法人は、観測装置を搭載いただいているNIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社様、「ひまわり8」の船主である日本通運株式会社様、運航管理の日本海運株式会社様、「ひまわり8」の乗員の皆様をはじめ、ご関係の皆様から多大なご協力をいただき、航走水温・塩分・pHデータを取得・公開しております。日頃のご支援に対し、深く感謝申し上げます。

海洋のモニタリングは、同一条件で長期に継続することに意義があります。今後も、皆様との信頼関係を維持・発展させ、目標達成に向けて進んでまいります。

実績経費：

装置維持管理事業の実績経費は230.3万円です。塩分計SBE45の、定期キャリブレーション費用が含まれています。

(3) 地域における海洋観測事業

当初の計画：

「沿岸域でも、長期に継続することで、より大きな空間スケールで起こっている変化を捉えることが可能ではないか」という当初の目的意識を継承しつつ、太平洋に面した場所に活動拠点を持つ地の利を活かし、新たな活動テーマを、引き続き模索する。

地域における海洋観測事業：

観測船によるモニタリング事業の優先と、来期以降の法人の在りかたを見直す一年とも重なり、次期へ持越し。

実績経費：

地域における海洋観測事業の実績経費は0万円です。

6. 事業会計の概要

2025年3月期事業会計

2025年3月期の事業会計の概要は以下のとおりです。当法人は非営利事業のみを行い、事業会計は、経常部門と特定資産部門とに分離して管理されています。

〔経常部門〕

・ 事業収入	
受け入れ寄付金	302.0 万円
特定資産運用益収入	100.0 万円
・ 事業支出	
事業費（3事業計）	279.2 万円
管理費	124.2 万円

〔特定資産部門〕

・ 期初特定資産総額	5,440 万円
・ 期中特定資産増加額	24.9 万円
・ 期末特定資産総額	5,465 万円

なお、経常部門の25年3月期末の正味財産合計額は-80.9万円で、前期末より18.5万円減少しました。

7. 役員承認の件

以下6名の再任

〔理事〕

(1) 植村泰治 (2) 大津三枝 (3) 金子泰造 (4) 関谷忠夫 (5) 田中祐志

〔監事〕

(6) 手島祥雄

8. 運営上の課題

当法人は、「海洋の基礎データを誰もが自由に利用できるよう提供し、海洋環境の変動を解明することに貢献する」との理念を掲げ活動を続けてまいりました。現在は、持続可能な社会の実現に貢献するという目標に向かって、日本通運株式会社様の RoRo 船により東京-北海道間の沿岸海域で取得した精度の高いデータをご提供することに努力しております。

発足から24年目を迎え、スタッフの高齢化、現場作業ボランティアの確保等、様々な課題に直面しつつも、その方向性や目的を整理し、事業内容を見直し、活動の継続に繋がりたいと考えています。

今後も皆様のさらなるご支援をいただければ幸いです。

以 上